最近の活動の状況

◇電話相談◇

子どもの虐待防止ホットライン　2015年10月～12月末日（速報値）　電話相談結果報告

①総受信件数　311件

＜内訳＞

1）相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
女性	0	21	59	117	17	22	46	282
男性	0	1	14	1	1	0	7	24

性別不明　5件

2）利用回数

初回	継続	不明
162	148	1

3）相談時間

～9	～19	～29	～39	～49	～59	60分以上
24	28	45	37	41	28	108

4）被虐待経験の有無

あり	なし	不明
166	23	122

②　内容別件数

虐待（含む危惧）	53
18歳以上の虐待	141
育児不安	47
マスコミ・問合せ	7
その他の相談	59
無言・ノイズ	4
妊娠・出産	0

＊虐待の型＊

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
45	137	7	5	0

編　集　後　記

新年が明け華やかな雰囲気も長くは続かず、各所で子どもの命が奪われる事件が相次ぎ、更に企業の社会的倫理観が根幹から揺らぐような事件・事故が連日のように報道され、日々の安全が、意識しないと、いえ意識しても手に入らない状況であると思い知らされています。CAPNAは昨年設立20周年記念講演会をさせていただき、改めてたくさんの人たちに支えられて活動が成り立っていることを感じました。また新たな思いで今後の10年そして20年に向けて活動してまいります。今後ともご支援ご協力よろしくお願いいたします。（松岡典子・井上光子）

発　行　NPO法人 CAPNA
事務局　〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-4-4-404

CAPNA ニューズレター

2016年1月発行
83号

CAPNA創立20周年記念を開催しました

講演会の様子です

「児童虐待防止」の社会の波に合わせて、民間の活動として1995年に設立したCAPNAは、その活動を多くの人々に支えられて、2015年に設立20周年を迎えることができました。12月6日、名古屋市中区栄の宗次ホールで開催された「CAPNA設立20周年記念講演＆コンサート」には、CAPNA支援者を始め広く一般の皆様にもお越しいただいて、盛会を納めることができました。

講演は宗次ホールのオーナーであり、全国チェーン店「カレーハウスCoCo壱番屋」の創業者でもある宗次徳二氏をお願いしてありましたが、当日会場に趣いて最初に目にしたのが、ホール入口に立って、午前の催し物からお帰りになるお客様をお見送りしている宗次氏ご本人の姿であり、場内の片付けや準備を整えたのち、再び午後開催となるCAPNAのお客様のため、入口に立たれてお迎えの挨拶をする姿でありました。
この人が本日の講演をいただくご本人なのだとわかると、その気取りのない自然体の振る舞いに、とても関心を持ちましたが、それは後ほど、講演でのお話をお聞きすれば、誰しも納得のいく、宗次氏にとっては当たり前の姿であったようです。

CAPNA事務局の目の前にも「CoCo壱番屋」があって、よくお世話になっていますが、1200店舗を超えるチェーン店を築いたそのご本人は、なんと天涯孤独、実の両親は誰なのかもわからずに孤児院で育ち、3歳の時に養父母に引き取られました。その生活がまた極貧と虐待に苦しむ日々ということで、あまりにも壮絶で悲惨な子ども時代を過ごしました。
その経験が「人に頼ってはいけない、自分の力で頑張ろう」との強い決意を生み出したと語り、仕事は自らが先頭に立って働き続け、事業を成功させました。そして、事業確立の後は、早々と後進に道を開き、現在は宗次ホールの運営にいそしまれています。

ふとした折に耳にしたバイオリン協奏曲の音色に心惹かれ、それからクラシック音楽が好きになったとのことです。クラシック音楽を通じて人と街をやさしくしたい、との思いから多くのコンサートを開催して、人々の心を癒しています。
子ども時代の辛い経験を乗り越えて、社会のために尽くすことが自分の喜びとなるような人生を、体現している宗次氏の生き様を知ることができました。虐待を乗り越えてという以上に、深く人間の生き方として、いろいろ考えさせられるお話であり、20周年の記念講演としてとてもふさわしいものでした。講演の後には弦楽四重奏のコンサートで心ゆったりとするひと時を味わい、豊かな時間を過ごすことができました。

ひとつの区切りを迎えることは、次に向けての新たなスタートを切ることでもあります。引き続きCAPNAの活動が社会の中で必要とされるものであるようにと、あらためて思いました。

～宗次氏を囲んで～

20周年を迎えたCAPNAは
これからも子ども虐待防止のために頑張ります！

国際ソロプチミスト名古屋とCAPNA

会　長　恒川　陽子

国際ソロプチミストは「女性と女児の生活の向上」を使命として奉仕活動を行っている世界的女性の団体です。私たち国際ソロプチミスト名古屋は1972年に日本で11番目に認証された45年の歴史あるクラブです。

CAPNA との関わりは、1997年にクラブ賞を当時の代表、故祖父江文宏氏に贈呈したことに始まります。以来毎年、ささやか乍ら寄付を継続してまいりました。

またクラブ認証３５周年記念として、2009年７月、DV被害者に少額の貸付ができる基金「国際ソロプチミスト名古屋 DV 被害者自立支援基金」を設立しました。DV 被害にあった女性は現金を持たずに逃げ出してくるケースが多いこと、公的貸付制度の手続きに時間が掛かるのですぐに利用したい、子どもが虐待され母親と保護されているという声を聞き立ち上げました。

現在、CAPNA のシェルター、かけこみ女性センターあいちで利用されています。

この基金の運営委員会を年に３回、CAPNA の塚崎様、かけこみセンターあいち、名古屋市男女平等参画推進室、子ども福祉課のご出席を頂いて行っています。この報告会は官民一体の意見交換の場であり、私たちが女性や子どもを取り巻く被害に一層の感心と理解を深める学びの場でもあります。

悲しいこども虐待のニュースはあとを絶ちません。経済的困窮、親の未熟、家庭崩壊等様々な要因が考えられるでしょう。

子どもの虐待防止のために日々活動されているCAPNAの存在は非常に大きくその役割は重要と感じます。

「小さい人の笑顔のために」

このCAPNAの理念のもと創立20年からまた新たな一歩を踏み出して下さい。

国際ソロプチミスト名古屋は今後も応援してまいります！

CAPNA　電話相談委員になって

受け手をさせて頂く様になって三年。ライン室の電話の前に座ると気持ちが高鳴りいつも緊張します。利用者の方はどの様な思いで電話をかけて来て下さるのか。かかる電話の中で、過去に虐待を受けた方。子どもの頃に親から受けた心の傷。どの様なものであれ、人生を大きく左右することを教えて下さる。今を生きて行く中、苦しみや辛さとなり、心を穏やかにするには時間がかかると言われる。

利用者に寄り添う事。それを求められている自分だが、解かりながらも中々出来ていかない。先輩に支えて頂き、また、ピアカンファレンスなどで例題を挙げ学び合う事で何とか続けられている。

多くの虐待のニュースを耳にしながら、子どもたちに対しての大人の責任の取り方を考えさせらせる毎日です。

これからも、少しでも力に成れる事を心がけ、電話の前に座れたらと思っています。

（　月曜グループ　T・A）

2016年1月発行 No.83

～ 今 後 の 予 定 ～

2016年1月30日（土）RIFCR研修（性虐待初期対応研修）※定員一杯になりました！

2016年2月　7日（日）CAPNA電話相談必須研修会
会　場　名古屋市市民活動推進センター集会室
※予備日・・・2月11日（祝）木曜日10：00～【404号室】
電話相談に復帰される予定の方は、事務局までお問合せください。
2/1までにお問合せください。

2016年2月18・19日（木・金）施設内虐待を防ぐための「安全委員会方式」研修，充実版
会　場　ウィンクあいち　　※若干名空きがあります（有料）

2016年2月20日（土）市民講座「知ってほしい特別養子縁組
～すべての赤ちゃんが家庭で育つために～」・・・同封チラシ参照
第2回「成長した特別養子の座談会」・・・・・・・・・同封チラシ参照

2016年2月25日（木）名古屋市委託事業「孤立する家族への支援～切れ目のない支援とは～」
会　場　名古屋市中区役所ホール　13：30-16：00
講　師　幸田政次氏（愛知みずほ大学短期大学部子ども生活専攻　教授）
参加費　無料（但　申込必須・詳しくは事務局まで）締切2/22（月）
対　象　NPO関係者　行政職員　施設職員　福祉関係者等　500名

寄付者（2015.10月～12月末日）

塩出澄子　小出砂恵子　曽根富美子　石田公一　萬屋育子　小川喜代光　競朗子
キシイチユキ　井上直美　くまの会　国際ソロプチミスト名古屋　匿名寄附（2件）

20周年記念　意見広告寄附者

法光寺　木村剛　早川大輔　井ノ塾　向山富雄　水野正三郎　水野正寛　水野貴章
諸橋幸子　塚田孝之　石川知子　前島美津枝　新田美津子　萬屋育子　川澄いづみ
谷田悟　名古屋名北ロータリークラブ　小笠原寛　尾関恵美　岡崎平和学園職員
川口和子　吉田衣里　迫田ゆみ子　水野雄介　水野真由　水野ひの　水野福也
石田金司矢満田篤二　矢満田幸子　塚崎真澄　広瀬由利子　田嶌誠一　井上薫
塩入裕明　齊藤由紀　山岡亨　山岡美和　那須友佳理　柴田美智子　平松千沙　パルム
岡田尚子井上光子　曽根富美子　愛知県産婦人科医会　上川清玄　安達友子　大川能子
伊藤幸工兼田智彦　山本秀樹　山中健司　小出砂恵子　松岡典子　石田公一　井上直美
隈元眞理子

ありがとうございました。

「すべての赤ちゃんがあたたかい家庭で育ってほしい」

第２回「赤ちゃん縁組伝達講習会」開催

今年度、日本財団の委託を受け財団との共催で、“すべての赤ちゃんが家庭の中で、家族からあたたかい愛情を受けて育てられるために”という主旨のもと、「赤ちゃん縁組伝達講習会」を名古屋会場は、８月20日・21日（参加者56名）KKRホテル名古屋。東京会場は11月８日・９日（参加者43名）日本財団会議室において、それぞれ二日間にわたり開催しました。

児童相談所の虐待相談件数は年々増加し、虐待で死亡するこどももあとを絶ちません。死亡している子どもの年齢で最も多いのは０歳０カ月０日、即ち新生児です。予期しない妊娠や出産後育てる見通しがないとときに出産前から相談にのり、育てられないときにできるだけ早く育ての親に繋ぐことが新生児の殺害・遺棄の予防となります。

公的機関である児童相談所にも「親が育てられない赤ちゃん、子ども」の相談は寄せられていますが、妊娠中から相談にのり、赤ちゃんを迎えたい夫婦に直接つなぐ取り組みはあまり知られていないのが現状です。愛知県内の児童相談所は妊娠中から相談にのり、乳児院を経ずに赤ちゃんを家庭に繋ぐ取り組みを30年以上、通常業務として取り組んでおり、そのやり方は「愛知方式」として紹介され、注目されています。

平成24年にCAPNAは全国の児童相談所に呼び掛け「赤ちゃん縁組実践交流セミナー」を開催し、全国の児童相談所に広がるきっかけとなりました。

今回の日本財団での講習会でも、一日目は「赤ちゃん縁組、一見不幸を一転幸福に」と題し衣斐哲臣氏（和歌山大学教授）の特別講演、矢満田篤二氏から「愛知方式の紹介・取り組みのいきさつと今までの経験談」とビデオ上映。２日目は児童相談所からの実践報告、グループワーク等などでした。盛りだくさんの内容でしたが、児童相談所の職員、乳児院、NPO法人スタッフ等多くの方々が熱心に事項してくださいました。

東京・日本財団会場での様子です。
一人でも多くの赤ちゃんがあたたかい家庭で育つことが出来るように、参加者全員が真剣に「赤ちゃん縁組」について学びました。

参加者からは次のような声が寄せられました。

―市福祉行政の立場から、赤ちゃん縁組・里親の広報や普及をどのようにしていくべきか様々なヒントを頂きました。今後は①里親・養親希望者の開拓②縁組後のフォロー体制（養親・実母）③市として関与の方向性についてより勉強したい。ありがとうございました。やはり実体験は素晴らしい。

―初めての新生児委託に取り組んでみると戸惑う事が多く、課題が多く見つかりました。各児相からの報告は今後新生児委託の実務を勧めるうえで、大変参考になるものでした。

―他県の里親委託の状況や色々な立場からの里親委託の課題等を知ることが出来、大変勉強になりました。里親さんの生の声を聞き、赤ちゃん縁組の素晴らしさを改めて感じ、少しでも多くの子どもが家庭で生活できるよう業務に取り組んでいきたいと思いました。

―今回の二日間は福祉の原点を知る時間でした。子どもの命を守るために躊躇してはいけないと思いました。

積極的な感想が多く、主催したものとしては大変喜んでいます。

２０周年記念に掲載した初代代表　故・祖父江文宏の追悼文集

―暴力が、正義の鎧をきてはびこる世の中です。
「世界中の子ども達」の窮状を訴える人達の、大声が聞こえてきます。
でも、足元に踏みつけている、小さい人「ひとり」が見えていません。
ひとりを見殺しにする理論で、言葉が汚されていきます。
これまで見捨ててきた小さい人への慙愧の思いをもって、今苦しんでいる
「ひとりの小さい人」に救いと支援の手をさしのべてください。
私の人生に残されたカードは、もうありません。
しかし、夢をつないでくださる皆様に出会いました。
またひとつ、安心を戴きました。
ありがとう。―

～事務局だより～

昨年の年末年始は財政難のため、403号室を引き払い404号室一部屋に荷物を押し込み何とか引越しをおえて早１年、まだまだものが多い状態ですが、何とか事業を実施しています。

昨年12月６日にはCAPNA20周年記念事業として、宗次さんの講演とコンサートを行いました。大変好評で満席になりました。ありがとうございました。

今年も、みなさまのご支援ご協力をよろしくお願いします。　（兼田・水野・齋藤）